

1) マルセル・モース (Marcel Mauss) にパーソン (Person) あるいは自己 (moi) についてのエッセーがある。厳密な意味での個人はヨーロッパにしか生まれなかったという。

日本語はいわゆる人称代名詞がない言語だった。私 (moi) はもともと家庭経済での女性のへそくりの意味で使われ、公 (おおやけ) に対することば。だから、「私する」というと不正の意味になる。

2) そんな日本人の「私」の崩壊が、認知症 (dementia) によってたいへんな勢いで、おこっている。

しかし、認知症とはなにか。それが脳の病気、疾病 (disease) なのか、老齢による症状なのか、かならずしもはっきりしない。WHO などの診断 (diagnosis) 基準でも、脳の器質的障害のうち「社会生活に支障をきたす状態」を dementia としている。したがって、ほかのたいていの病気とはかなりことなる。いわば社会的病い。

3) 原因のひとつアルツハイマー氏病なども加齢と関係している。モンテーニュがいうように、人間の人格 (person) も歯が抜けるように徐々に欠け落ちていく。

最初に空間の見当識があやしくなることが多いらしいが、患者は端からみると、まるで雲の上を歩いている人のようにみえる。記号論 (semiotic) 的にいえば、物や人への指示機能 (referential function) が欠落している。それでも、残った能力を寄せあつめて、自分、私 (moi) を演じようとしているのが認知症患者なのである。

4) この発表では、日本で最初につくられた専門施設、「きのこエスポワール病院」での試みを紹介しながら、広く記憶と身体、仮構 (fictitious) 世界などについて考える。

* 認知症関連用語

- ・脳血管障害
- ・中核症状と辺縁症状

前者は、記憶力障害、見当識障害、計算力、抽象的思考能力障害など。

後者は「問題行動」といわれる徘徊、弄便など。

- ・介護者
- ・ユニット・ケア、ここでは患者10人を職員5人で介護する